

生徒指導のなかで  
はぐくむ④

**“安心感・安全感”**

1

島根県教育センター  
教育相談スタッフ・相談セクション



# 生徒指導とは

## 【生徒指導の定義】

社会の中で自分らしく生きることが出来る存在へと児童生徒が、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のこと

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

2022年に改訂された新しい生徒指導提要。  
そこには、  
「生徒指導の定義」が、このように示されています。

## 生徒指導とは

### 【生徒指導の目的】

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を**支える**と同時に、自己の**幸福追求**と**社会に受け入れられる自己実現**を**支える**。

出典：「生徒指導提要」文部科学省2022年

また、生徒指導の目的として、これまでも語られてきたことに加えて、「子どもたち自身の幸福追求」と「社会に受け入れられる自己実現」を「支える」という大きな目的も明文化されました。

## 生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての  
教職員によって

“**支え、応援する**”営み

すべての子どもたちが

- ★「幸せになること」
- ★「自分らしく居られること」
- ★「自ら伸びていこうとすること」

これらを

- ★すべての教職員によって、支え、応援する営み
- ★それが「生徒指導」なのです。

生徒指導のなかではぐくむ④

# “安心感・安全感”



生徒指導のなかではぐくむ④  
今回は「安心感」「安全感」をテーマに  
みなさんと一緒に考えてみたいと思います。



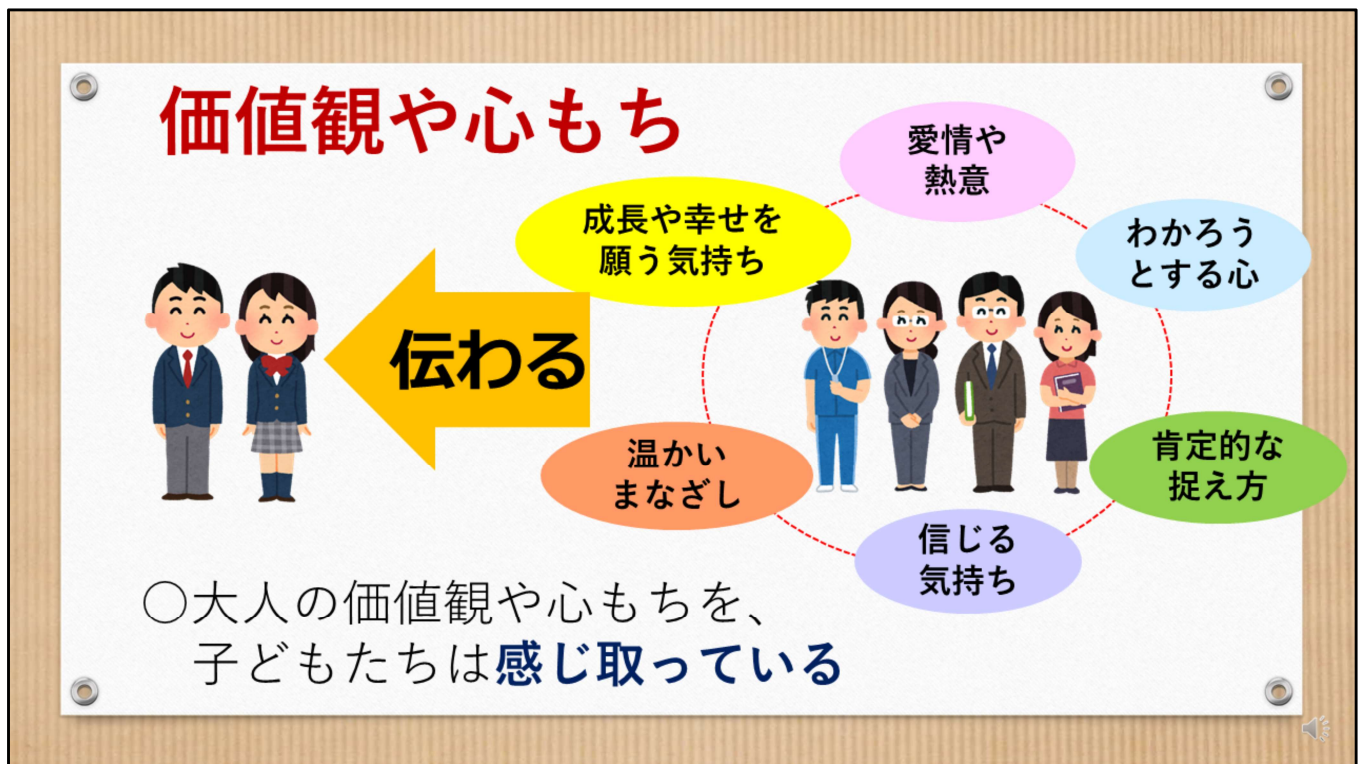
学校は  
学習活動や人との関わりの体験を通して  
子どもたちの生きる力を育む場所です。

主体的な学びや他者との豊かな関わりを実現していくために必要な  
最も大切な心の基盤。  
それが、★子どもたち自身が感じる「安心感」「安全感」です。

安心や安全を感じられる心の状態は  
★学びを支える土壌のようなもの。  
安定したこの土壌があって★  
はじめて、人は学ぶことができます。



では、子どもたちにこの感覚を育むために  
★私たち教職員との関係のなかでは、  
どのようなことを大切にしていけばよいのでしょうか。



まず、指導や支援の大前提として  
もっとも大切なことは、私たちの「心のありよう」です。

- ★私たち教職員がどのような価値観や心もちで  
その子の前に立っているのか。  
それは  
言葉にして伝えなくとも
- ★子どもたちは敏感に感じ取る感性を持っています。

「何を言うか」「何をするか」よりも、  
どんなまなざしを向けているか、ということが  
「伝えなくとも伝わっている」ということを  
私たちは常に心に留めておく必要があります。



ミニ  
ワーク①

## 乱暴な言動にどうかかわるか



・思うこと・考え・自分ならどうかかわるか 等  
思いつくことを箇条書きしてみましょう

\* ペアやグループでこの内容について話をしてみましょう。

ではここで、1つめのミニワークを行います。

学級のなかで、気に入らないことがあった場面で  
すぐにこのような言葉が口から出てしまう子どもが居たときに。  
みなさんは、何を思い、どのようなかかわりをするでしょうか。

動画を一旦停止して、  
思いつくことを、□の中に箇条書きしてみましょう。  
書き終わったら、ペアやグループでこの内容について話をしてみてください。

ミニ  
ワーク①

## 乱暴な言動にどうかかわるか

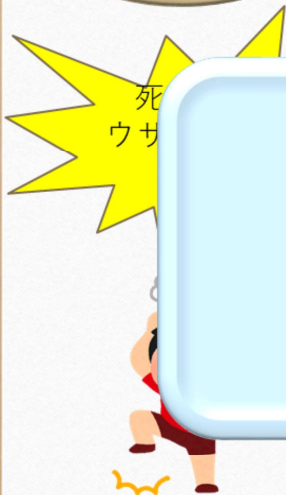
・思うこと・考え・自分ならどうかかわるか 等

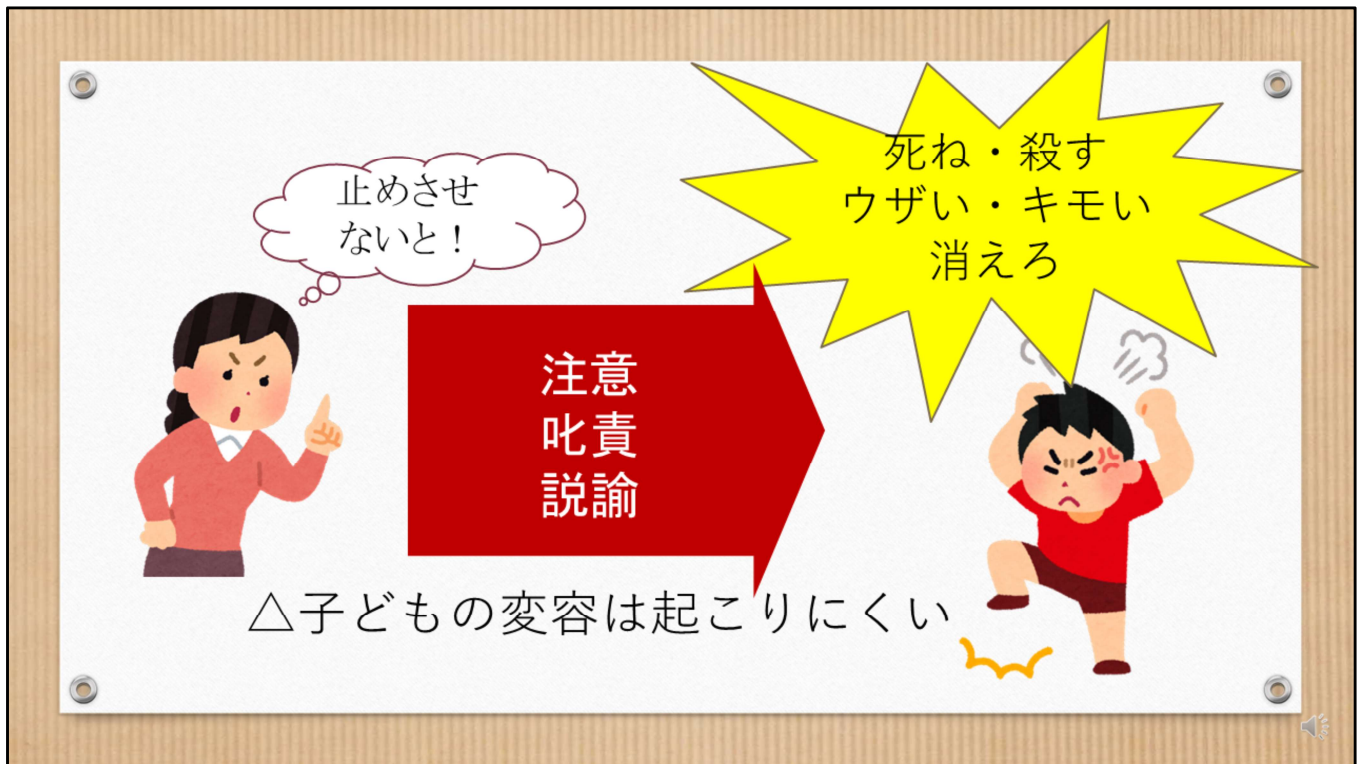
動画は一旦停止



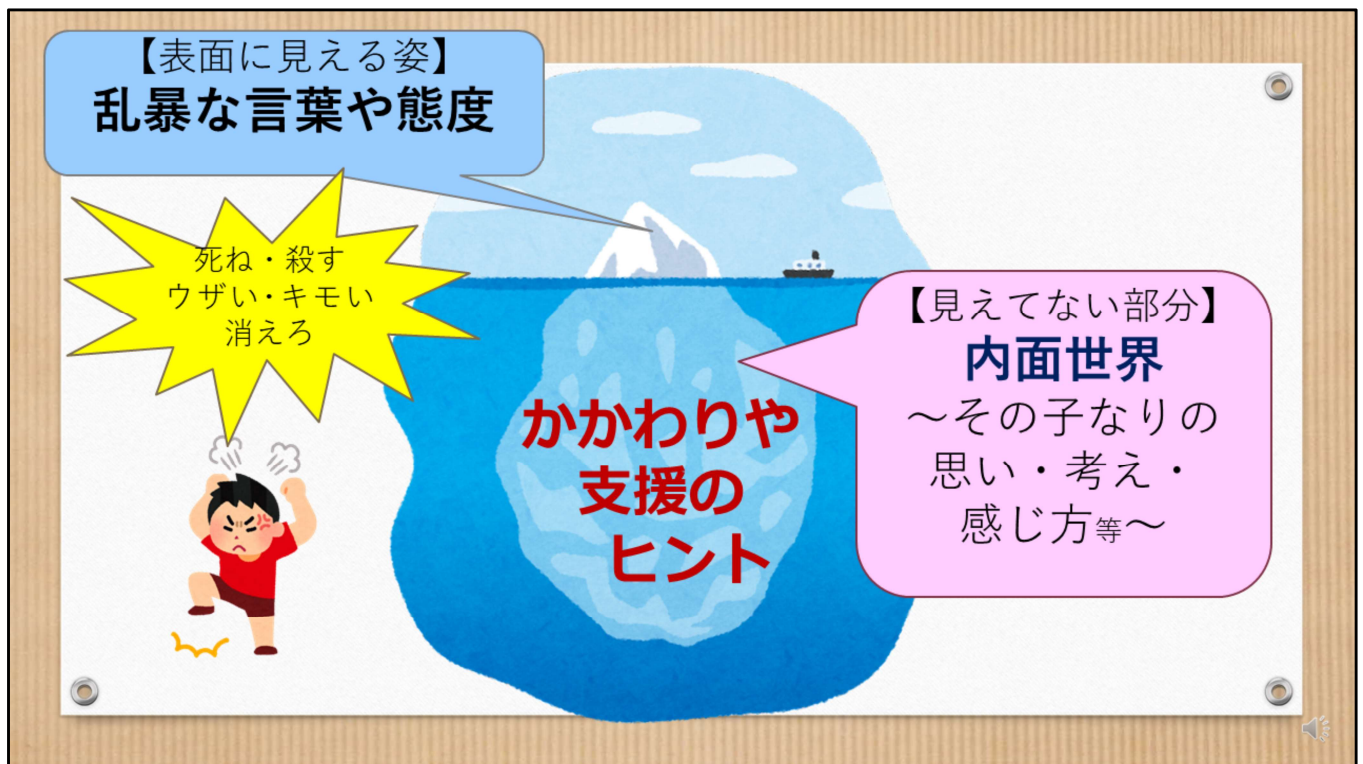
記入→話し合い

\* ペアやグループでこの内容について話をしてみましょう。

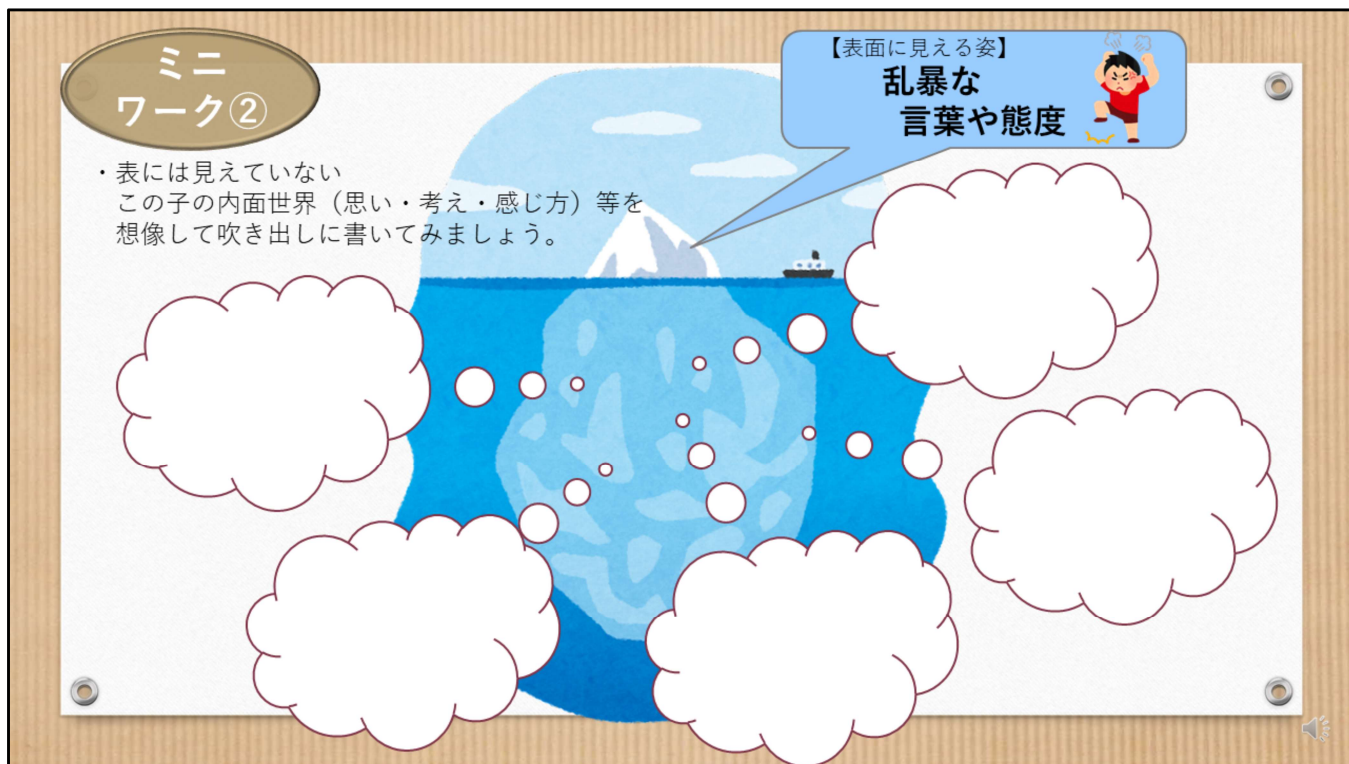




このような状態になっている子どもに  
その言動そのものを「なくそう」「治そう」として、★  
「注意」や「叱責」「正論を説く」といったかかわりだけを行っても、  
★うまくいくことは少ないようです。



「乱暴な言葉や態度」といった  
表面に見えている子どもの姿への直接的な働きかけではなく、  
★この冰山モデルが示しているように、  
水面下に隠れて目には見えていない部分  
つまり、その子の内面世界にこそ、  
★かかわりや支援のヒントは隠されているものです。



では、2つめのミニワークです。  
乱暴な言葉や態度を取っているこの子どもの、  
表には見えてこない内面世界を想像してみましょう。

動画を一旦停止して、  
この子なりの思い、考えや感じ方などを  
吹き出しに書いてみましょう。  
書き終わったら、ペアやグループでこの内容について話をしてみてください。

ミニ  
ワーク②

- ・表には見えていない  
この子の内面世界（思い・考え・感じ方）等を  
想像して吹

【表面に見える姿】

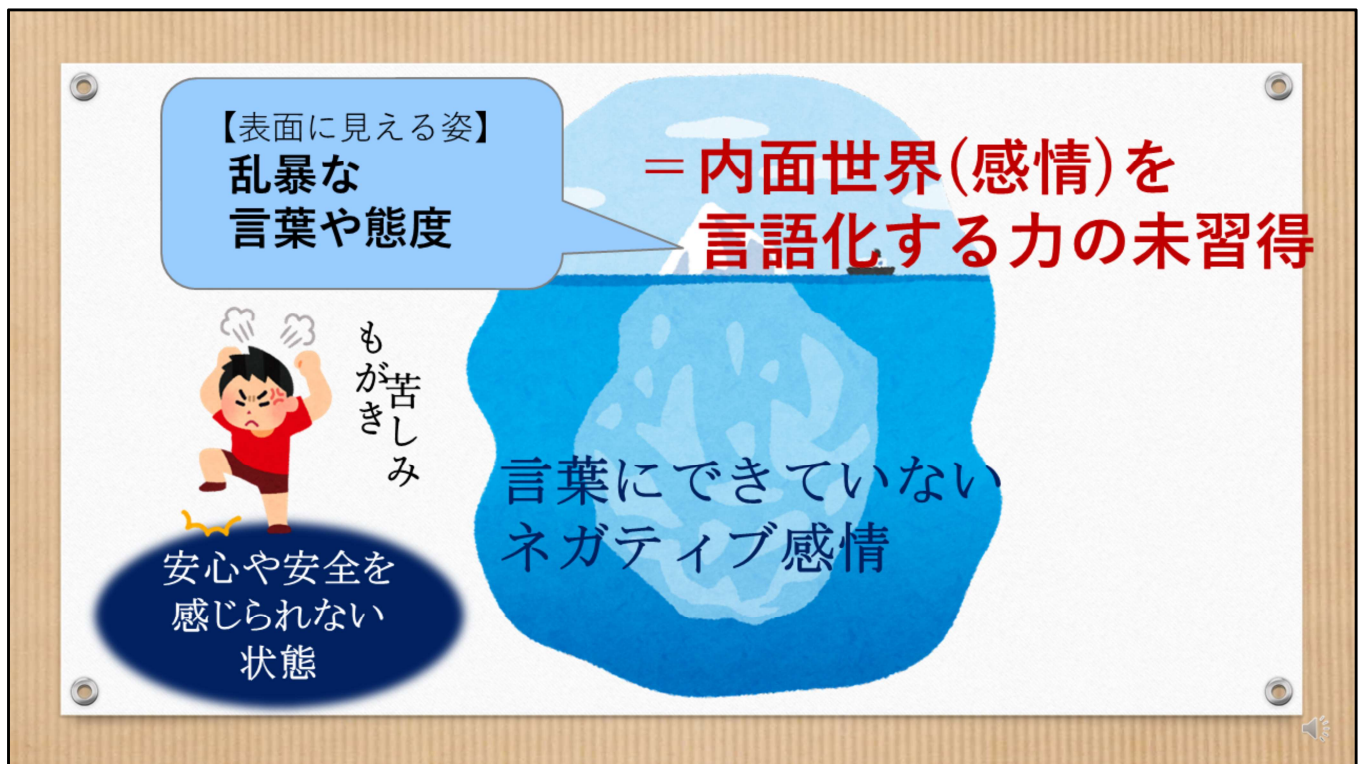
乱暴な  
言葉や態度



動画は一旦停止



記入→話し合い



表面に見えている乱暴な言葉や態度。  
その正体は、★この子の「内面世界を言語化する力」の未習得です。  
特にネガティブな感情を適切に言語化するという能力が、  
年齢相応には育っていない状態であるといえます。

水面下にあるのは、  
★まだ言葉にすることができていない、ネガティブ感情。  
目に見えているのは、★この子の「もがき」や「苦しき」です。

★安心や安全を感じられる心の状態ではないことが  
乱暴な言葉や態度として表れているのです。

## ネガティブ感情を言語化する



○その子がまだ**言葉にできてない感情**を、かかわる大人が**意識的に言語化**する。

悔しかったんだね

腹立つね

悲しいよね

辛かったなあ

苦しいね...

そのような状態の子どもたちにかかわるときに、大切にしたいのが、「感情の言語化」という大人のかかわりです。

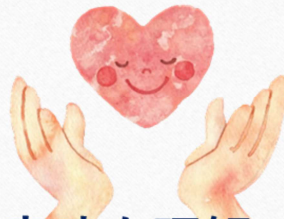
★「そうか、消えて欲しいと思うくらい、そんだけ悔しかったんだね」  
「殺すって、言いたくなるくらい、辛かったんだなあ」  
「苦しくて苦しくて、どうしようもなくって暴れちゃったんだね」  
「そんな言い方されたんだ・・・腹が立ったね」

★その子がまだ言葉にできていない気持ちを、関わる大人が意識的に言葉にして、その子に返していくという支援が必要なのです。



## ネガティブ感情を言語化する

- ☑感情のラベリング
- ☑適切な感情表現のモデリング



- この**支援の意味を理解**している大人が、**あきらめないで関わり続ける**ことが重要

この支援を行うことで、  
子どもは

★感じている感覚と、感情に付けられた「名前」を一致させることができ、  
自分自身の「感情のラベリング」ができると言われています

また

★大人の声かけが、その子にとって適切な感情表現のモデルになるという効果もあるでしょう。

もちろん、一回の声かけで大きく子どもが変容するということはありませんし、  
この支援の成果はすぐには現れません。

★ですが、この支援の意味を、関わる大人が理解し、  
あきらめずに、その子に関わり続けることが、大切なのです。

## ネガティブ感情の奥にあるもの



本当は・・・

- ・仲良くしたい
- ・うまくやりたい
- ・頑張りたい
- ・認められたい
- ・困っている
- ・助けてほしい etc.

○子どもの**内面世界へのアクセス**を！

ネガティブ感情のその奥には、  
その子なりの、「願い」や「本音」が隠れています。

本当は、どうしたいのか、  
どうなりたいのか、  
どうしてほしいのか

★ネガティブ感情の言語化というかわりを通して、  
その子の内面世界にアクセスしていくことが、支援の鍵になってきます。

## 安心感・安全感を育むために

「わかってもらえた」  
「大切にしてもらえた」  
「応えてもらえた」

- 子ども自身がこのような**感覚**をもっているかどうか
- 日頃の支援を「**その子がどう感じているか**」という視点で振り返る

このような支援を通して、

★自分のことを「わかってもらえた」  
「大切にしてもらえた」  
自分の思いに「応えてもらえた」

★その子自身がそのように「感じられている」ということが、  
安心や安全を感じられる心の状態に繋がっていきます。

★また、私たちの日頃の支援について、  
その子自身がどう感じているか、という視点で振り返っていくことも必要な姿勢  
です。



安心や安全の感覚は

- ★身近でかかわる人との関係性のなかで、
- ★時間をかけて丁寧に育んでいくものです。

私たち教職員と子どもたちの間にこのような感覚を育んでいくことが、

- ★ひいては子どもたちの「主体的な学び」や「他者と関わる力」の育成に繋がっていくことでしょう。

## 生徒指導とは

すべての児童生徒が

- 幸せに
- 自分らしく
- 伸びていく

すべての  
教職員によって

“**支え、応援する**”営み

すべての子どもたちの  
幸せと成長を願って

日々の生徒指導を通して、  
教職員みんなで、  
子どもたちを支え、応援していくことができますように。

## 生徒指導のなかではぐくむ④ “安心感・安全感”



### 【参考・引用】

- ・ 生徒指導提要（文部科学省）2022年
- ・ 気にかかる子どもに関するワークシート集（島根県立松江教育センター）2016年
- ・ 子どもの問題 いかに関係する（魚住絹代）2013年 PHP新書
- ・ 子どもたちの感情を育てる教師のかかわり（大河原美以）2007年 明治図書出版
- ・ 子どもの感情コントロールと心理臨床（大河原美以） 2015年 日本評論社
- ・ 教室マルトリートメント（川上康則） 2022年 東洋館出版
- ・ 愛着障害は何歳からでも必ず修復できる（米澤好史） 2022年 合同出版
- ・ ストレス時代のこどもの学び（副島賢和） 2020年 風鳴舎

以上で本研修プログラムは終了となります。  
お疲れ様でした。